

# 命題的現象と発話事象的現象：アイロニーを例として

西脇 沙織

(フランス国立パリ社会科学高等研究院博士課程修了)

一般に、発話の意味は命題 (proposition, contenu propositionnel, contenu) と命題以外の要素、いわゆる発話事象 (énonciation, contenu énonciatif, attitude) の 2 部門に分かたれる。従来、アイロニーは発話事象の性質によって生じる発話事象的現象だとされてきた。本発表では、アイロニーを命題の性質によって生じる命題的現象として捉え直す。具体的には、アイロニー発話における起源 (origine, source) の問題を扱い、アイロニー発話の命題は話者以外の誰かによって構想されるという Sperber & Wilson (1978) の説明、話者自身によって構想されるという Ducrot (2010) の説明に対して、アイロニー発話の命題は他者によって構想されることも、発話者自身によって構想されることもあることを示す。それに基づいて、命題の起源はアイロニー成立に直接的な関係はなく、同一の対象が言語的に 2 度、相反する 2 つの方法で記述されるという命題そのものの性質のみがアイロニー成立を可能にすることを述べる。

## 参考文献

- DUCROT, O. (2010), "Ironie et négation", V. ATAYAN, U. WIENEN. (eds), *Ironie et un peu plus. Hommage à Oswald Ducrot pour son 80ème anniversaire*, Frankfurt am Main, Peter Lang, 169-181.
- SPERBER, D. & D.WILSON (1978), "Les ironies comme mentions", *Poétique*, 36, 399-412.